



写真：Grupo Amorim

### 2010年上海万博のポルトガル館の外壁はコルクでできています

2010年上海万博のポルトガル館のパビリオンにコルクが使われています。総面積 2,000 平方メートルのパビリオンは、上海万博のテーマ、「Better City, Better Life(より良い都市、より良い生活)」に挑み、マカオ在住のポルトガル人建築家カルロス・コウト(Carlos Couto)によってデザインされました。

コルクはポルトガルの国産製品であることに加え、リサイクル可能なエコ製品であり、世界最大規模の万博でポルトガルのイノベーションや環境活動への取り組みをアピールできる素材として選ばれました。

300 万ユーロをかけて完成したパビリオンは、世界の文化・商業センターとしてのポルトガルを浮き彫りにしています。コルク製のパビリオンは現代都市における建築物の持続可能性というコンセプトを反映しており、それは経済および環境に対するポルトガルの国政の重要な要素でもあります。

ポルトガル館では、500 年に渡るポルトガルと中国の関係のほか、持続可能なエネルギーや環境に配慮した革新的な製品開発に向けたポルトガル人の努力を展示しています。

APCOR は、ポルトガル館におけるコルクのプロモーションについて、ポルトガル投資貿易振興庁に交渉中です。

展示期間は2010年5月1日～10月31日までで、ポルトガル館は2010年6月21日に888,888人の来館者を迎えました。

より詳しい情報は、下記ウェブサイト(ポルトガル語)をご覧ください:

<http://www.portugalexpo2010.com.pt/homepage.aspx>.